

日時 令和七年七月六日（日）
場所 光市民ホール

午前十時開会（開場九時）
山口県光市島田四丁目十三―十五
電話（〇八三三）七二一―一四四一

令和七年度 中国地区代表選出

全国吟詠コンクール中国地区大会

主催 公益財団法人

日本吟剣詩舞振興会
中国地区連絡協議会

全国吟詠コンクール決勝大会

◎とき R7.9.15(月・祝) ◎ところ 東京・日本教育会館一ツ橋ホール

大会次第

- | | | | |
|----|--------------------|----|--------|
| 一、 | 国歌斉唱 | 一、 | 審査講評 |
| 一、 | 開会の辞 | 一、 | 大会会長挨拶 |
| 一、 | トロフィー返還と
レプリカ贈呈 | 一、 | 来賓挨拶 |
| 一、 | 審査委員紹介 | 一、 | 審査会議 |
| 一、 | 審査規定発表 | 一、 | 成績発表 |
| 一、 | 吟詠コンクール | 一、 | 表彰辞 |

(注意)

一、役員集合午前九時

戦国漢人日本吟詩舞振興会全詩

世川良一作

朝に今夕に舞うて心身と練り
 礼節持し束て互に真と養う
 世界は一衣比肩我友
 願わくは斯道と興して人倫を正さん

乃川鎮江書

大会役員

大会特別顧問

〃

〃

〃

大会顧問

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

廣重 光風

山本 賀陽

大本 翠山

高木 法洲

平岡 光峰

藤岡 鶴伯

大橋 宗風

森山 清明

田邑 嘉風

宮野 鶴誠

藤河 久清

熊本 慧山

下原 龍劍

春菜 翔桂

楠部 齋山

大会会長

大会副会長

〃

大会委員長

大会副委員長

〃

〃

〃

大会事務長

大会副事務長

〃

〃

〃

大会事務次長

浮津

佐藤

中林

藤上

河田

橋本

木戸

中島

菅源

胡中

高山

山城

東城

菅源

虔山

翔風

清城

翔山

薦泉

清邦

一声

瞭風

右光

翠陽

鶴山

明洲

豊山

左麗

審査委員

審査委員長

審査副委員長

審査委員

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

浮津 虔山

佐藤 翔風

田邑 嘉風

楠部 齋山

高木 法洲

中林 清城

河田 藹泉

森岡 盟山

橋本 清邦

山城 明洲

米本 耿泉

関口 麗煌

竹内 龍馨

西向 靜邦

河村 昇山

田村 俊風

大会相談役

山本 鷺風	坪井 誓山	千田 岳鵬	藤岡 鴻琳	向山 滄洲	佐々木翠滉
長尾 岳鷺	土井 典周	二宮 信風	河村 昇山	西向寺靜邦	小坂 蘆洲
谷野 忱風	河村 志風	竹内 龍馨	杜下 勝峰	倉本月華城	杉原 馨仁
秦 早洲	高木 婉風	秦 鷺洲	柴倉 勇洲	岸 實熠	和氣 栄世

大会参与

猪木原凖泉	大山 師泉	今脇 萌山	内藤 秀山	松永 楓山	森島 麗桜
大下 馨風	増田 斑山	青木 剣心	岸田 天洲	小林 翠山	片山 久山
中島 翔竜	二井谷健山	蘭田 華山	白井 翠画	楠部 倫山	秋山 翠柳
新内賀久隆	道田 煌山	竹森 彪華	菅源 右近	藤本 靜寿	白濱 妃風
山本 龍貴	菅源 左翔	伊井野翔踪	加藤 榮泉	松浦 良紀	矢立 風山
寺本 龍山	佐々木伸山	小川 聡風	玉井 薫風	松下 聖風	高木 鶴成
田邑 嘉鐘	須田 瑞良	佐藤 瑞雪	吉田 芳陰	竹内 芳園	景 芳容
河野 翠洋					

大会運営役員

総務	◎秦 早洲	○金屋 馨心			
受付	◎藤本 靜寿	○森田 艶風	水間 桃風	中村 和子	
司会	◎光貞 土風	○吉村 青風	山本 龍貴		
進行	◎井上 慧風	○藤井 清風	大島 錦風	中原 典燕	
音響	◎竹内 龍宸	○河内 春風	福永 兼風		
計時	◎佐伯 統風	○山口 慈風			
記録	◎河村 洞風	○津野 鯉風			
接待	◎藤川 青風	○西本 美風	重村 響風	竹岡 稀風	
昼食	◎高河 瞳風	○吉永 光明	岡崎 鶴織	岡 鶴淋	
会場舞台	◎古屋 鶴洵	岡本 鶴峯			
集計	◎大原 翔風	○上田 博風	成瀬 翔風	田中 陽風	
集票	三瓶 正雄	長谷 裕治			
賞典	◎菅源 左麗	○津野 紅風	藏中 恵水	菅源 右凜	
会計	◎中谷 靜透	○原田 孝水	村本 華水	山根 基江	
	◎高木 婉風	○大田 敏風			

令和七年度全国吟詠コンクール中国地区大会実施要項

- (1) この「コンクール」は、わが国の伝統芸術である吟道に親しむ一般並びに青少年に、日ごろの吟道精進の成果を競う場を与えると同時にすぐれた吟詠家を発掘し、これを表彰して吟詠の向上と普及、発展を図ることを目的とし、公益財団法人日本吟剣詩舞振興会制定の全国吟詠コンクール実施要項に基づいて実施する。

- (2) この「コンクール」は、左の六部門に分けて行うものとする。

区分	幼年の部	少年の部	青年の部	一般一部	一般二部	一般三部
資格	満12才未満	満12才以上 18才未満	満18才以上 35才未満	満35才以上 55才未満	満55才以上 75才未満	満75才以上

(いずれも年令は令和七年四月一日現在とする)

- (3) この「コンクール」の出場者は、公益財団法人日本吟剣詩舞振興会中国地区連絡協議会運営下にある五県の予選大会で行われた「コンクール」に出場して選出されたものであり、「プ

ログラム」に記載された者以外の出吟は許されない。
尚、次の者はこの「コンクール」に当初から参加を認められない。

- (イ) 第五十回全国少壮吟詠家審査コンクールに入賞した者、及び少壮吟士として表彰された者。

- (4) この「コンクール」は次の審査要項によって実施する。

- (イ) 「コンクール」を行う順序は大会次第通りとする。

- (ロ) 出吟順は申込メ切後厳正公平な抽選で決定した「プログラム」順番通りとし、この変更は許されない。

- (ハ) 吟題はすでに発表された本年度指定の吟題（幼年・少年の部十題、青年・一般一部・二部・三部十題）のうちから選び、あらかじめ届け出た一題を吟ずるものとする。

- (ニ) 吟じ方は、まず司会者が出場者の番号・氏名を紹介し、出場者は指定伴奏CDの前奏を確認し吟じ始める。出吟前後の礼は省略する。

- (ホ) 吟詠時間は吟じ始めてから二分以内に吟じ終るものとする。
- (ヘ) 何らかの原因で伴奏曲が本人申告と違った場合には、前奏の間に申し出ること。
- (5) 次の場合は失格とする。
 - (イ) あらかじめ届け出た「プログラム」に記載された吟題と異なる場合。
 - (ロ) 財団刊行の吟詠教本の読み方に基づいて統一された、本年度指定吟題の読みと異なる場合。
 - (ハ) 吟詠の途中で絶句・やり直し・誤読をした場合。
 - (ニ) 各部共に吟じ始めてから二分を超えた報らせのベルが鳴った場合。
 - (ホ) 「プログラム」記載の出吟順番に遅れた場合。
 - (ヘ) 審査結果発表並びに入賞者表彰時に事前に届け出なく出場者本人が不在の場合。
 - (ト) その他、審査委員長が失格と認めた場合。
- (6) 成績の判定は、日吟振内規による「吟詠コンクール審査規定」に基づく。

- (7) 入賞者発表は表彰式典の席上で行われる。
- (8) 審査の採点は次の各項にウエイトをおいて行う。
 - (イ) 吟声がすぐれているかどうか。
 - (ロ) 発声、技術がすぐれているかどうか。
 - (ハ) 伴奏曲と調和（音程をふくむ）しているかどうか。
 - (ニ) アクセントが正しいかどうか。
 - (ホ) 詩心を的確にとらえているかどうか。
 - (ヘ) 吟詠態度が良いか悪いか、服装は男女問わず和服を着用のこと、洋服着用の際は2点の減点とする。和服着用の際は着付け歩き方がみだれている時は減点の対象とする。
 - (ト) マイクの上下を操作する時は、扇子を左腰に差し両手、片手を問わずスムーズに操作し、片手の場合でも減点しない。
- (9) 「コンクール」進行中の拍手、声援、私語雑談及び大会本部許可の報道関係者並びに記録班以外の会場内での写真撮影、テープレコーダー録音は禁止する。

◎コンクール出場者氏名

〈幼年の部〉 3名

3	2	1	番号
林 洸 希	原 田 峻 輔	井 川 駿	氏 名
偶 成	九 月 十 日	富 士 山	吟 題
8	9	9	本数
4	7	4	C D
			成績

〈少年の部〉 6名

9	8	7	6	5	4
竹 本 幸 輝	元 久 竜 太 朗	有 田 美 優	大 山 桔 乃	縄 手 美 月	原 彩 佳 理
偶 成	富 士 山	早に白帝城を発す	江南の春	江南の春	早に白帝城を発す
8	1	9	8	7	9
12	4	2	3	1	2

〈青年の部〉 7名

16	15	14	13	12	11	10
西 山 穂 菜 美	小 川 さ く ら	平 岡 大 輝	西 山 優 花	松 下 大 輔	猪 木 原 怜 花	平 岡 朋 子
元二の安西に使用するを送る	汪倫に贈る	元二の安西に使用するを送る	元二の安西に使用するを送る	楠公を詠す	三樹の酒亭に遊ぶ	汪倫に贈る
8	10	3	8	4	8	8
8	続 10	8	8	10	7	8

〈一般三部〉 61名

23	22	21	20	19	18	17
眞田 大治	鈴木マサエ	出口ナラ子	楠部有希子	兒玉多江子	野瀬富貴男	福田 哲夫
己亥の歳	汪倫に贈る	汪倫に贈る	汪倫に贈る	汪倫に贈る	汪倫に贈る	汪倫に贈る
2	7	7	7	6	4	3
11	続 10	1	1	続 10	2	続 10

31	30	29	28	27	26	25	24
日高由美子	森脇富美子	浮津美津恵	白松 順子	小島 智義	松本 徳彦	菅野美代子	川野辺 郁
除夜の作	楠公を詠ず	汪倫に贈る	汪倫に贈る	三樹の酒亭に遊ぶ	武野の晴月	汪倫に贈る	武野の晴月
9	7	7	6	3	2	7	6
7	10	3	続 10	続 3	4	1	4

39	38	37	36	35	34	33	32
原田 和子	大嶋 洋	東 廣司	武田 霽	西内光良	堀 ヒロ子	北村 恵三	西井俊文
汪倫に贈る	楠公を詠ず	凱旋	江雪	三樹の酒亭に遊ぶ	江雪	元二の安西に使用するを送る	元二の安西に使用するを送る
5	3	2	7	2	7	3	水 1
1	続 8	続 15	5	7	続 3	5	続 3

47	46	45	44	43	42	41	40
貞綱 勉	岡 富子	石飛 佑次	河岡 孝司	中山 常利	坂本 きよみ	平松 美智子	森 富代
武野の晴月	己亥の歳	凱旋	元二の安西に使用するを送る	武野の晴月	汪倫に贈る	汪倫に贈る	汪倫に贈る
3	7	1	2	4	7	6	5
4	12	続 17	8	続 12	3	4	3

55	54	53	52	51	50	49	48
兼松 マサ子	藤森 眞澄	勝部 洋子	赤木 輝美子	前田 美和子	長谷川 明生	飯田 妙子	小幡 宏政
汪倫に贈る	凱旋	除夜の作	汪倫に贈る	元二の安西に使用するを送る	汪倫に贈る	汪倫に贈る	凱旋
7	5	8	6	6	1	7	3
続 10	9	続 13	7	8	7	続 10	9

63	62	61	60	59	58	57	56
稗田 泰久	下西 美保子	好井 廣海	今川 孝江	上野 和子	小林 勝年	北野 愛子	片山 俊次
除夜の作	山の夜	汪倫に贈る	汪倫に贈る	汪倫に贈る	汪倫に贈る	山の夜	元二の安西に使用するを送る
2	7	1	8	5	3	5	3
8	8	5	3	5	続 12	続 12	6

71	70	69	68	67	66	65	64
平岡幸子	高橋雄子	小野孝子	胡中重俊	中村恭子	浦部圭子	土屋憲一	森田智子
汪倫に贈る	楠公を詠ず	汪倫に贈る	汪倫に贈る	汪倫に贈る	除夜の作	凱旋	汪倫に贈る
7	7	6	2	8	6	2	8
8	続 15	続 3	4	2	7	続 17	続 10

78	へ一般二部へ 45名	77	76	75	74	73	72
黒川洋三		河村志壽枝	藤井博文	水落桂子	岡村咲子	金堀孝行	本行俊明
凱旋		汪倫に贈る	江雪	汪倫に贈る	汪倫に贈る	凱旋	元二の安西に使うを送る
2		5	3	5	6	2	1
9		続 10	続 12	1	続 12	10	8

86	85	84	83	82	81	80	79
西村祐子	木戸頌子	玄馬透	児玉春雄	秋本祐子	清田宏和	小橋裕子	作田和人
武野の晴月	元二の安西に使うを送る	武野の晴月	己亥の歳	除夜の作	己亥の歳	汪倫に贈る	楠公を詠ず
6	8	3	4	8	3	7	3
6	続 12	5	11	続 13	10	3	11

94	93	92	91	90	89	88	87
藤原幸	岩佐住栄	山影佳代	景容子	白濱美智子	原田万里子	寺本真司	中野康子
除夜の作	汪倫に贈る	江雪	己亥の歳	江雪	元二の安西に使用するを送る	武野の晴月	除夜の作
7	8	7	8	8	8	3	7
5	2	続 1	12	続 3	2	3	5

102	101	100	99	98	97	96	95
木村眞美	河野文恵	安部豊枝	佐藤保則	杉村さよ子	濱崎厚子	中屋百合子	岡本芳晴
凱旋	凱旋	汪倫に贈る	除夜の作	汪倫に贈る	汪倫に贈る	汪倫に贈る	元二の安西に使用するを送る
8	7	6	2	7	5	8	2
続 15	続 16	3	7	続 12	8	続 10	5

110	109	108	107	106	105	104	103
金藤朋子	福島史利	木村智志	尾方公一	武田美子	中谷範夫	松下美樹	中里文昭
武野の晴月	江雪	凱旋	元二の安西に使用するを送る	除夜の作	江雪	除夜の作	楠公を詠す
6	3	3	2	8	3	8	4
3	6	10	8	続 12	続 2	続 13	10

118	117	116	115	114	113	112	111
柘植晃子	小川聡子	白神真理子	山根令子	西山美由紀	草刈小夜子	曾田恵美子	小藤千枝
汪倫に贈る	汪倫に贈る	汪倫に贈る	武野の晴月	元二の安西に使用するを送る	元二の安西に使用するを送る	己亥の歳	三樹の酒亭に遊ぶ
8	8	6	7	8	7	6	8
2	続 10	続 3	6	8	続 14	続 17	3

125	124	123	へ 一般一部 15名	122	121	120	119
杉原由佳	塚村慶子	武居志保		二井谷 健	勝部美穂子	本庄栄子	野間澄子
除夜の作	除夜の作	汪倫に贈る		除夜の作	汪倫に贈る	三樹の酒亭に遊ぶ	三樹の酒亭に遊ぶ
8	8	7		4	7	8	8
7	6	続 10		5	2	3	8

133	132	131	130	129	128	127	126
北川由紀	田邑由香里	山田美和	砂川由衣	佐藤弘樹	福島 亘	楠部倫子	平岡精二
汪倫に贈る	山の夜	江雪	汪倫に贈る	元二の安西に使用するを送る	凱旋	汪倫に贈る	武野の晴月
9	8	7	8	4	3	8	3
3	続 12	8	8	5	続 17	続 12	4

吟 詠		
部 門	入賞数	決勝進出
幼年の部	2 (1)	2
少年の部	2 (4)	2
青年の部	3	2
一般三部	19	6
一般二部	14	6
一般一部	5	3
合 計	45	21

◎「幼年の部」「少年の部」の
() 内は敢闘賞数

137	136	135	134
高木恵美子	武政 朋子	劉 金 鵬	白 神 信 子
三樹の酒亭に遊ぶ	汪倫に贈る	元二の安西に使用するを送る	汪倫に贈る
8	8	2	6
続 11	2	8	続 3

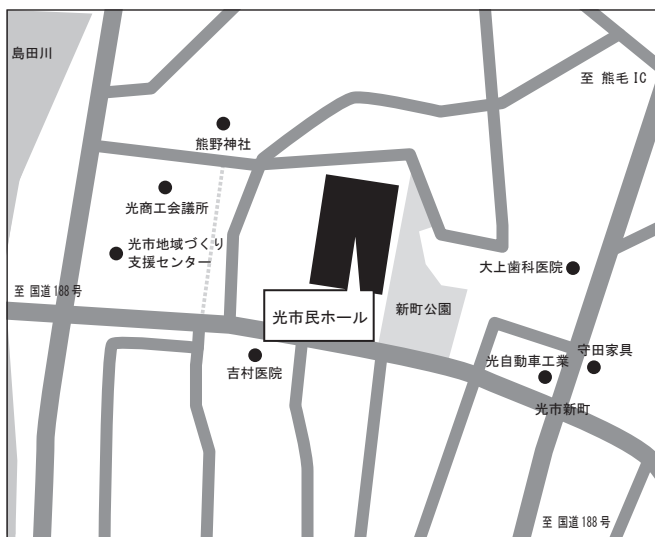
令和7年度全国吟詠コンクール指定吟題

【幼年・少年の部】

① 九月十日	菅原道真
② 富士山	石川丈山
③ 山行同志に示す	草場佩川
④ 桂林荘雑詠諸生に示すその(一)	広瀬淡窓
⑤ 寒 梅	新島襄
⑥ 春 暁	孟浩然
⑦ 早に白帝城を発す	李 白
⑧ 江南の春	杜 牧
⑨ 春 夜	蘇 軾
⑩ 偶 成	朱 熹

【青年・一般の部】

① 山の夜	嵯峨天皇
② 武野の晴月	林 羅 山
③ 三樹の酒亭に遊ぶ	菊池溪琴
④ 元二の安西に使用するを送る	王 維
⑤ 汪倫に贈る	李 白
⑥ 除夜の作	高 適
⑦ 凱 旋	乃木希典
⑧ 楠公を詠す	日柳燕石
⑨ 江 雪	柳 宗 元
⑩ 己亥の歳	曹 松



■電車をご利用の場合

JR 山陽本線 光駅までお越しください。

光駅からは、バスまたはタクシーをご利用ください。

■バスをご利用の場合

JR バス 室積公園口行きに乗車し

「島田市」バス停（約5分で到着）で下車後、徒歩約10分です。

■タクシーをご利用の場合

光駅から約10分です。

■バスをご利用の場合

「島田市」バス停から徒歩約10分

■お車でのお越しの場合

高速道路をご利用の場合は、山陽自動車道 徳山東 I.C.

または 熊毛 I.C. から国道 188 号線を東進または

山口県道 8 号線徳山光線を南進してください。

徳山東 I.C. から約 15 分、熊毛 I.C. から約 15 分です。

車でのお越しの際には第2駐車場をご利用ください
（市民ホールの向かい側）